

営業合宿－2025－



玄関ホールにて記念撮影

九月四日、五日の二日間、タニサケ営業マンの合宿研修が開催されました。初日に台風十五号が接近のため、東京支店からは参加できませんでした。

研修の初日は、新製品についての話し合いがされました。二日目は、今期の今までの営業についての話し合いが行われました。また、二日目の朝六時半よりトイレ掃除の研修も行われました。

（関連記事を六ページに掲載）

小便器を磨く



意見交換を行う営業マンの皆さん



鍵山秀三郎さんに学ぶ

新規事業

新規事業に挑戦するのは重要ですが、基本的な心構えは、今の仕事をきちんと固めながら、新たな道を模索するという姿勢です。

『一日一話』鍵山秀三郎著より



ネズミ退治には
コロソブロック



ゴキブリ追放宣言

落語に学ぶ

「洗練された嘘」のたしなみ方

落語立川流真打ち 立川談慶

巷ではAIを使った詐欺まがいのフェイク動画や画像が溢れています。隙あらば人を騙して儲けようなどというよからぬ空気が満ち溢れている証拠かもしれません。

「人を騙しても楽しく儲けた者の勝ち」なんて、世知辛いですよねえ。どうせなら、罪のない明るい「嘘」を楽しみたいものです。

いや、そんな他愛もない「嘘」を身近でたしなむことが日々のトレーニングにもなり「嘘リテラシー（活用する能力）」はきつと高まるものと私は確信しています。

嘘にまつわる落語に「弥次郎」というのがあります。

ご隠居さんが「嘘つき」で有名な町内の弥次郎呼びにやって暇つぶしをするという、なんとも江戸ならではの呑気さが横溢する一席です。あらすじは弥次郎が北海道に行ったという嘘話から始まります。

……北海道はあまりにも寒いので、「おはよう！」とあいさつすると、その「おはよう」の声が凍って「お

はよう玉」ができる。それが春になると解けてあちらこちらで「おはよう！」という声でうるさいんです。

極めつきは「火事の炎まで凍る」弥次郎は「凍った火事を見世物にしよう」と、思いつき、牛の背中に

「凍った火事」を積んで運ばせようとしたが、暖かくなって「火事」が解け、牛は丸焼けになってしまった。

「水をかけても消えません。これが本当の『焼けウシに水』。牛が熱がってモーやだ」

そのうちに、山奥から大イノシシが出て来た。「びつくりして近くの木によじ登ったんですが、埒があかないのでイノシシの背中の上に飛び下りて、夢中でしがみついているうちに、弥次郎はイノシシの睾丸をつかみ、握りつぶすと、イノシシはひっくり返って気絶した。」

とどめを刺そうと腹を裂くと、中から子イノシシが十六匹飛び出す。シシ十六というオチ。

ご隠居が「おい、待て弥次郎、キントマがあるんならオスだ。オスの腹から子どもがでるか？」え？ああ、

そこが畜生の浅ましさ」

師匠の談志は「江戸の爛熟が落語という素っ頓狂な芸術を生んだ」と言っていました。

文化はある意味、退廃的な時間と空間の緩さが前提にないと発生しないものなのかもしれません。

今や文明の名の元、さらにコンプレックス（法令遵守）が拍車をかける格好で、「嘘」悪いものというレッテルが貼られ、身近な嘘がなくなり、かえって嘘に対しての「免疫力」が下がって詐欺にひっかかってしまうのではないのでしょうか。

落語は「優しいばかばかしい嘘」の宝庫です。「弥次郎」をはじめとした落語を漢方薬として日頃から耳になじませてゆきましょう。必ずやあなたの「嘘リテラシー」は上昇するはずです。

「毒をもって毒を制す」感じで「嘘をもつて嘘を制す」……充実した日々をお過ごしください。

日本講演新聞より



立川談慶師匠

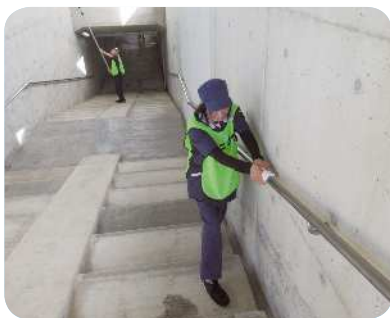
地域清掃奉仕活動

九月十九日、朝礼が終わった後、地域清掃奉仕活動が行われました。今回も先月と同じ、県道両側の側道のゴミ拾いと地下歩道の清掃を実施しました。

県道の側道のゴミは、タバコの吸い殻が一番多くありました。また、缶コーヒートの空き缶やペットボトルなどはありませんでした。



軍手を拾う 〇〇さん



地下歩道の手すりをピカピカにする 〇〇さん